

令和 5 年 6 月 25 日現在

機関番号：32510
 研究種目：基盤研究(B) (一般)
 研究期間：2019～2022
 課題番号：19H01213
 研究課題名(和文) アウグスト強王コレクションにおける18世紀前期輸出磁器と「日本宮」の日本表象研究

研究課題名(英文) The Porcelain Collection of Augustus the Strong : Early 18th Century Japanese Export Porcelain and Images of Japan in His "Japanese Palace"

研究代表者
 櫻庭 美咲 (SAKURABA, Miki)
 神田外語大学・日本研究所・講師

研究者番号：20425151
 交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 9,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、ザクセン選帝侯アウグスト強王が18世紀に収集した日本陶磁を対象に現地で行った悉皆調査の成果を軸に、主に以下の点を明らかにした。(1)アウグスト強王旧蔵の東洋磁器コレクション(推定約8,000点)のうち、約1,200点は有田産の磁器、その内約7割は金襴手様式である。(2)有田・赤絵町出土陶片と強王旧蔵品を比較検討し、赤絵町遺跡の層位的な相対的年代と、強王旧蔵品の所蔵品目録に基づく年代の変遷は基本的に一致することを実証的に証明した。(3)1721-27年の所蔵品目録を調査し、強王旧蔵品の日本磁器の内容と照合することにより、当該期間の日本宮における日本磁器の陳列方法を再構築した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

アウグスト強王コレクションは、現存数約8,000点という規模と、18世紀の所蔵品目録と王の没年により入手下限を1733年迄に限定しうる史料的价值から、世界屈指の基準資料と謳われてきた。しかし本コレクションについて、これまで目録と日本陶磁の関係把握を基に全体像を捉える包括的研究は皆無だった。それゆえ本研究が、18世紀の目録に登録されたことが明らかな日本陶磁の全容を把握し、網羅的に収録する目録をまとめ公開したことは至大な意義をもつ。さらにこの成果が、ドレスデン国立美術館のオンライン・カタログを通じ国際的に向け発信され、活用される学術的・社会的意義は計り知れない。

研究成果の概要(英文)：This research is based on the results of a comprehensive survey of Japanese porcelain acquired by the Elector Augustus the Strong of Saxony in the 18th century, and mainly clarified the following points. 1) The collection of oriental porcelain formerly owned by Augustus the Strong (estimated at about 8,000 pieces), includes about 1,200 pieces of Arita porcelain, about 70% of which are in the Kinrande style. 2) The results empirically demonstrate that the stratigraphic relative age of the Akae-machi site is basically consistent with the chronological transition based on the inventory of the Augustus the Strong's collection. 3) By examining the collection inventory from 1721-27 and comparing it with the content of the Japanese porcelain in the related period, the display arrangement of Japanese porcelain at the Japanese Palace during this period are reconstructed.

研究分野：美術史

キーワード：美術史 工芸史 考古学 東西交流史 国際共同研究 陶磁史 保存科学 修復

1. 研究開始当初の背景

17～18世紀における西洋宮廷では、東洋趣味の流行にともない日本から輸入された磁器が愛好され、大量の磁器を陳列する豪華な内部装飾が西洋諸国で流行した。18世紀初頭、ドイツのザクセン選帝侯アウグスト二世(1670～1733・通称アウグスト強王、以下強王と略)は磁器収集を開始する。コレクションは急速に増大し、やがて強王はドレスデンの居城付近に城を購入、これを改築して磁器の城を作ることを計画する。城は「日本宮」と名付けられ、そのために中国・日本製の磁器約3万点が収集された。この城内の全ての部屋に磁器が陳列される計画であった。ところが1733年、強王が急逝すると、「日本宮」の建設は中断され、磁器は「日本宮」の地下に保管された。その後磁器の多くは流出するも、いまなお約8千点の強王コレクションがドレスデン国立美術館磁器コレクション館に現存。そのうち強王旧蔵品の日本磁器はドレスデン側で総数約1,250点と推定されていた。強王コレクションは、その歴史的価値により常に一部の資料が基準資料として参照され注目されながらも、統一的な基準に基づく悉皆調査やその全体像の公開は未踏であった。

この強王コレクションを悉皆調査し、全作品を収録した総目録を一般公開することを目的とする、強王旧蔵磁器コレクションのオンライン・カタログを編纂するための国際研究プロジェクトが2012年に発足した。同プロジェクトの組織は、ドレスデン国立美術館磁器コレクション館長の管理の下に、学術および運営(各種助成金により賄われる)の統括にクリスチャン・ヨルフ(ライデン大学名誉教授)があたる。オンライン・カタログの執筆、そのための調査および関連する諸課題の研究は、ドレスデン国立美術館、アムステルダム国立博物館、V&A美術館、ピーボディー・エセックス博物館、台湾故宮博物院、ライデン大学などで日本・中国陶磁を専門とする世界の学芸員や教員等が共同で行ってきた。同プロジェクトの日本側メンバーは、執筆者として研究代表者の櫻庭、研究分担者の荒川正明、研究協力者の藤原友子、相談役として研究協力者の大橋康二、西田宏子である。申請者は、このオンライン・カタログを共同執筆するための共著者に任命されたことを受け、現地調査を実現するため、文部科学省科学研究費助成金基盤研究(C)「ザクセン選帝侯アウグスト二世旧蔵日本磁器の研究 西洋における日本像の受容史的」(期間：平成28～30・研究代表者：櫻庭美咲、課題番号16K02291)研究を開始、現地で有田の磁器を中心とする日本陶磁の悉皆調査をおこない、約800点を調査した。また、上記国際研究プロジェクトの依頼を受け、ドレスデンのオンライン・カタログに掲載するための英文作品解説約440点分を執筆、2018年にプロジェクトに提出した。

注目すべきことに、ザクセン宮廷が「日本製 *Japanisch*」と称したのは金襴手様式磁器であることがドレスデン側の研究で指摘されてきた(Elisabeth Schwarm, *Die Präsentation der Porzellane in den Kabinetten des Palais[...]*, In: Ulrich Pietsch / Cordula Bischoff / Staatliche Kunstsammlungen Dresden [Hrsg.], *Japanisches Palais zu Dresden [...]*, München, 2014)。当時の西洋諸国では日本製の金襴手様式磁器への評価が極めて高く、18世紀前半に有田で作られた西洋向け磁器は大半が金襴手様式であった。そのため中国(景德鎮)でも模造品が作られたことから、強王旧蔵品の金襴手様式にも日本と中国製品が混在するが、それら全てが当時のザクセンでは「日本製」と称されていた。しかし、金襴手様式の意匠は、逆れば明時代の景德鎮を起源とするのであり、それが有田で独自に発展したものである。このように、「日本宮」における日本認識は、実際の製品の性格との齟齬を多分に内在するものである。強王コレクションと「日本宮」は、日本とよばれた多様なイメージが重層的に絡みあう、特殊な日本文化の受容例と言えよう。ところがこれまで当該領域の研究はドイツを中心に進められ、こうした日本認識を問う考察が日本側の視点から、日本を中心に的確に理解され、性格づけられた前例はなかった。

2. 研究の目的

本研究は、アウグスト強王が「日本宮」のために収集した日本磁器の調査研究を目的とする。強王は欧米最大規模といわれる膨大な中国製および日本製の磁器コレクション(以下、強王コレクションと略)を形成した。そのうち日本製は当時推定現存数が約1,250点といわれてきたが、その大部分は18世紀前期有田で製作された金襴手様式と呼ばれるタイプの色絵磁器である。本研究は、強王コレクションの日本磁器を悉皆調査し、その結果に基づき主に次の4つの課題について明らかにする。(1) 18世紀前期輸出磁器に関する製作地の考古学的把握、(2) 日本伝統意匠の研究、(3) 磁器に施された漆塗り装飾の材料と製作技術の研究、(4) ドレスデン「日本宮」における日本表象を対象とする美術史的受容史研究。さらに本研究の主要な成果を、まず初めに世界各国の専門家達による国際共同研究プロジェクト(以下ドレスデンプロジェクトと略)を通じ、英文の強王コレクションのオンライン・カタログに掲載し、インターネットを通じ世界に一般公開することを計画。その後最終年にその公開された研究成果に基づいて、本科研独自の研究課題にも取り組むことを計画した。

3. 研究の方法

本研究では、強王コレクションの日本陶磁を対象に、以下の5課題に絞り、各年度実施する現

地調査（ドレスデン・有田）および研究を進める。

強王旧蔵日本陶磁の悉皆調査：未調査の約 450 点を現地調査し、産地年代等の DB を作成する。

18 世紀前期輸出磁器の考古学的研究：強王旧蔵の磁器を有田町出土の陶片（有田町歴史民俗資料館蔵）と照合し、製作地域等を確認し、特に金襴手様式の絵付の製作地を実証的に解明する。

漆塗り装飾磁器の研究：現地調査を行い、漆塗り装飾の材料分析と形状観察を行う。

伝統意匠の研究：日本の伝統意匠の図像学的意味、文化史的背景、特殊な意匠に関する調査を行い、研究をまとめる。

「日本宮」の日本表象：「日本宮」の宮廷文書の原本を現地調査し、独語資料を解読し、実物の磁器と比較することによりザクセンにおける磁器を介した日本認識の実像を解明する。

4. 研究成果

本研究では、研究協力者 6 名を加えた計 10 名が上記 ~ の課題を分担し、主に下記の研究成果 I~V をまとめた。これらの成果は、主として以下の 2 種類の公開方法により公開される。

【公開方法 1】本科研の基盤研究（B） 課題番号 JP19H01213「アウグスト強王コレクションにおける 18 世紀前期輸出磁器と『日本宮』の日本表象研究」研究成果報告書『アウグスト強王コレクション 18 世紀前期輸出磁器と「日本宮」の日本表象研究』（櫻庭美咲編、総 192 頁、発行神田外語大学、2023 年 3 月）

【公開方法 2】ドレスデン国立美術館磁器コレクション館が主催するアウグスト強王旧蔵磁器コレクションの国際共同研究プロジェクトによる英文オンライン・カタログ[仮称]、採択時まで 2021 年公開予定であったが延期され、2023 年 12 月末以降に同館より公開予定）

・ 強王旧蔵日本陶磁の悉皆調査と DB 作成（大橋康二、櫻庭）

基盤研究（C）の調査分もふくめ、アウグスト強王旧蔵品（ドレスデン国立美術館磁器コレクション館蔵）のうち同館が日本産と推測した磁器約 1,250 点を悉皆調査した。その全点について大橋康二氏の統一的な基準に基づいて判定された産地年代等の鑑定結果を DB に登録した。DB には、強王の旧蔵品であることを示すパレスナンバーが記された作品だけを登録し、各資料を様式別に分け、製作年の時系列順、組物（同一デザイン品）ごとに配列した。その結果、現存する強王旧蔵品の日本陶磁の総数は 1,203 点であり、その内訳は肥前磁器 1,180 点（有田産 1,178 点、肥前産 1 点、波佐見産 1 点）、ヨーロッパで絵付された肥前磁器（主に有田産）16 点、京焼 7 点であることを確認した。さらに、これらの鑑定結果にパレスナンバーや写真等を加えた写真付 DB を作成した。そこで注目すべき最大の特徴は、ドレスデンに現存する強王旧蔵品日本陶磁の 7 割を金襴手様式が占める点である。本 DB は、本科研の報告書に「アウグスト強王旧蔵日本磁器コレクション目録」として掲載し、公開した【公開方法 1】。その英訳は上記【公開方法 2】により公開予定である。

・ 18 世紀前期輸出磁器の考古学的研究（大橋、櫻庭）

赤絵町から出土した膨大な磁器片全点を悉皆調査し、そこから西洋向け輸出磁器を抽出、その全種類を撮影した写真とアウグスト強王旧蔵品を照合することにより同品 30 点を特定した。また、この 30 点のうち 19 点は 1721~1727 年の所蔵品目録に登録されていることから遅くとも 1723 年以前、8 点は 1779 年の所蔵品目録に登録されていることから 1733 年以前に宮廷に納められたものであることが判明した。しかもこのうち 8 点は、アウグスト強王へ磁器を納めたオランダ商人や貴族等の納入者名も目録に記載されている。これら陶片と強王旧蔵品および所蔵品目録を比較検討した結果、赤絵町遺跡の層位的な相対的年代と、強王旧蔵品の色絵磁器を収録した所蔵品目録に基づく年代的変遷は、基本的に矛盾しないことを実証することができた。これらの陶片には、想定された金襴手様式 19 点だけでなく、色絵の柿右衛門様式 3 点も含まれており、赤絵町で絵付けされた柿右衛門様式の特徴を明らかにする手がかりも掴むことができる。出土品のなかには一部赤絵町以外で完成された製品も含まれていたが、それを除いた強王旧蔵品と一致するこれら磁器片のうち色絵をほどこされた磁器の大半が、確かに今日、赤絵町遺跡と呼ばれる地点の赤絵窯で焼かれた製品であることが証明されたのである。本研究成果は論文「赤絵町出土品とアウグスト強王コレクションの比較研究」（大橋・櫻庭著）にまとめ、本科研報告書に掲載【公開方法 1】。また同論文を再編集し、作成した英語版も上記【公開方法 2】により公開予定である。

・ 漆塗り装飾磁器の研究

-1：材料分析研究（島津美子・ドロネー・ジャンジャック、櫻庭）

本研究では、三種類の漆塗装飾磁器（染付色絵漆装飾牡丹唐草文鳥籠形大瓶、染付漆装飾桐鳳凰文蓋付大壺、染付漆装飾獅子牡丹竹文蓋付大壺・大瓶）より、剥落した試料片約 30 点を分析対象とし、彩色材料、とくに顔料の分析を行った。

いずれの剥落片も、本体である磁器の表面に装飾を施すにあたり、漆による下地が施されている。装飾窓の縁や文様は、漆に地粉などを混ぜて作ったモデリング材により立体的に造形され、地の部分は漆や赤色顔料を混ぜた漆により金箔が貼られている。文様のレリーフは貝殻胡粉と推定した白色顔料で下塗りが施され、鳳凰、周辺の花や葉、小川などが、それぞれ赤、緑、青で彩色されていた。彩色の赤には水銀朱が、緑には天然藍と石黄を混合したものが用いられたと推定される。青色箇所からは銅を含む青色顔料アズライトが見つかったが、江戸時代の日本で

は使用事例の少ない鉛白が下塗りに含まれている箇所があり、後世の修復である可能性もある。

全体に、装飾自体は磁器の形状や文様に関わらず、共通の技法で作られていると考えられる。しかしながら、漆箔貼りの漆の種類、モデリングの作り方、彩色の下地作りなど、細かな技法は個々の作品により異なっている可能性が高い。本装飾作品群は、同一モチーフの作品が複数作られていることから、それらを比較することで、ドイツでの修復箇所との区別も含めて、より詳細な技法や使われた彩色材料の傾向などが明らかになるものと思料される。

本研究成果は論文「漆塗り装飾染付磁器に見られる彩色装飾の材質分析と製作技法の考察」(島津・ドロネー・櫻庭著)にまとめられ、本科研報告書に収録した【公開方法1】。

-2: 漆塗り装飾鳥籠形大瓶の購入記録研究(藤原友子)

近年、ルース・ソニヤ・シモニス氏によるザクセン宮廷の古文書研究(Ruth Sonja Simonis, *Microstructures of global trade Porcelain acquisitions through private networks for Augustus the Strong*, Staatliche Kunstsammlungen Dresden, Porzellansammlung / Ruth Sonja Simonis[eds.], Heidelberg, 2020.)によって多数の取引関係史料が公表され、アウグスト強王旧蔵品の入手先や入手経緯が実証的に解明された。ただし記録の大部分は、個別作品の特定に足る作品の具体的な詳細を欠くものであることも判明した。藤原氏は、文書記述から磁器作品を特定できる特殊な事例として漆塗り装飾鳥籠形大瓶を挙げ、オランダがそのヨーロッパにおける入手先であったと分析。漆装飾をもつ有田磁器をプロデュースしていたのはオランダ東インド会社の個人貿易に関わる商人である可能性が高いと分析した。本研究成果は論文「ドレスデン国立美術館磁器コレクション館所蔵染付色絵漆装飾牡丹唐草文鳥籠形大瓶の購入記録」(藤原著)にまとめられ、本科研報告書に収録した【公開方法1】。

・日本陶磁の様式別デザイン研究(荒川正明、大橋、櫻庭、西田宏子、藤原)(五十音順)

研究目的に掲げた「伝統意匠の研究」(日本の伝統意匠の図像学的意味、文化史的背景、特殊な意匠)の研究成果である。本成果は、本科研報告書の第二章「ジャンル解説編」に以下の論考を収録し公開した【公開方法1】。さらに、*付の論考は、その英訳も完了し、上記【公開方法2】により公開される予定である。

- A. 大橋康二「有田窯の生産とアウグスト強王コレクション」*
- B. 藤原友子「初期伊万里・初期色絵 初期輸出作品群」*
- C. 藤原友子「有田(肥前)磁器の単色釉製品 白磁瑠璃釉鉄釉青磁」*
- D. 大橋康二「肥前・有田の柿右衛門様式」
- E. 大橋康二「肥前の染付」
- F. 櫻庭美咲「中国趣味からバロックへ 日本宮の IMARI にみる国際様式としての金襴手様式」*
- G. 荒川正明「17世紀末～18世紀初期「ポスト柿右衛門様式」」*
- H. 西田宏子「京焼アウグスト強王コレクションに見る作品紹介」*

論考A~Hは、元々ドレスデンの国際プロジェクトが、同プロジェクトによるオンライン・カタログの「解説編」に掲載するための解説として、企画したテーマである。プロジェクトは、強王旧蔵品の日本陶磁を以下B~Hの7種類に分類した。Bは初期色絵、Cは単色釉磁器、Dは柿右衛門様式、Eは染付、Fは色絵と染付を施した金襴手様式、Gは色絵のみの金襴手様式、Hは京焼。さらにこれに先行するAは、17世紀中頃から18世紀初頭にB~Gの磁器を生産した有田における生産窯について、包括的に解説した総論である。この「解説編」は、7つのテーマおよび有田窯の総論によって、強王旧蔵品のすべての主要なデザインを概観できるとともに、その産地や製作期間を面的・時間的に把握できるよう全体が構成されている。

・「日本宮」の日本表象研究(櫻庭)

本研究では、はじめに1721~1727年、1779年の所蔵品目録の原本、1719年のザクセン皇太子の結婚式の光景を表した日本宮の銅版画および日本宮の建築図面等の原本の写真を分析した。つぎにこれらの古文書史料の内容を悉皆調査で把握した日本陶磁の実物と照合し、両者の相互関係を検討した。とりわけ、1721~1727年の目録については有田磁器(と京焼)が掲載された7つの章の構造を示し、各章の分類方法を考察した。その結果、ザクセン宮廷では中国と日本の陶磁を産地ではなく主に色別に章分けして陳列したこと。さらに、唯一産地名を付された「日本磁器」と命名された章の磁器群は、基本的に、赤・金・染付を基本とする有田金襴手およびそれに近い配色の景德鎮製の所謂チャイニーズ・イマリ、徳化の人物像という、換言すれば一部の金襴手様式磁器とその写し、およびザクセン宮廷がその類似品とみなしたタイプであることを確認した。さらに、磁器の目録記載内容と強王旧蔵品の磁器を1719年の皇太子の結婚式の光景を表した日本宮の銅版画とも照合し、当時の日本宮における日本磁器の壁面陳列を、所蔵品目録と銅版画に基づき可能な限り読み解き、そのうえでザクセン宮廷が「日本磁器」と呼んだ磁器が表象した、つまり「日本」という名を冠した日本表象のイメージを復元的に再構築した。本研究の成果は、櫻庭著論文「日本宮に陳列された日本磁器 Japanisch Porcellain 1721年の所蔵品目録の研究」にまとめ、本科研報告書に掲載した【公開方法1】。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計42件（うち査読付論文 6件 / うち国際共著 5件 / うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 櫻庭美咲	4. 巻 10
2. 論文標題 神聖ローマ帝国諸侯の磁器陳列室に みる政治性と日本の表象 ブランデンブルク = プロイセンおよびザクセンの事例を中心に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 中近世陶磁器の考古学（雄山閣）	6. 最初と最後の頁 253-279
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 櫻庭美咲	4. 巻 188
2. 論文標題 出光美術館コレクションにみる伊万里焼と西洋宮廷の華麗	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 出光美術館 館報	6. 最初と最後の頁 7-27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大橋 康二 , 太田 公典 , 梅本 孝征 , 佐藤 文子 , 澤岡 織里部	4. 巻 48
2. 論文標題 シンクロトロン光による呉須顔料の非破壊分析と比較研究	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東洋陶磁	6. 最初と最後の頁 48, 55-74
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大橋康二, 扇浦正義	4. 巻 -
2. 論文標題 唐人屋敷跡出土の清朝陶磁中心の変遷	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 第9回近世陶磁研究会資料 江戸時代における年代の判る罷災資料 中国陶磁と肥前陶磁の共伴資料を中心に	6. 最初と最後の頁 29-90
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大橋康二	4. 巻 -
2. 論文標題 日本の輸出磁器	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 朝鮮陶磁 肥前の色をまとう(韓国普州博物館)	6. 最初と最後の頁 208-221
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 大橋康二	4. 巻 -
2. 論文標題 文京区小日向一丁目北遺跡出土の「柿右衛門」在銘の色絵小皿について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東京都文京区小日向一丁目北遺跡(大和ハウス工業他)	6. 最初と最後の頁 135-140
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大橋康二	4. 巻 11
2. 論文標題 肥前磁器における板作り成形の柿右衛門様式 壺・瓶について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 中近世陶磁器の考古学(雄山閣)	6. 最初と最後の頁 185-201
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 荒川正明	4. 巻 793
2. 論文標題 「破壊」から「再生」へ: オーストリア・ロースドルフ城の陶磁器	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 陶説	6. 最初と最後の頁 46-53
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 野上建紀	4. 巻 6
2. 論文標題 東アフリカの遺跡と陶磁器(II) 2019年の調査から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 多文化社会研究	6. 最初と最後の頁 71-101
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 櫻庭美咲	4. 巻
2. 論文標題 マイセン製柿右衛門様式磁器写し物にみる異文化受容の特質	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 造形のポエティカ 日本美術史を巡る新たな地平(青簡舎)	6. 最初と最後の頁 835-857
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大橋康二	4. 巻 第6号
2. 論文標題 江戸初期における肥前磁器の開発過程について	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 佐賀県立九州陶磁文化館紀要	6. 最初と最後の頁 1(98)-29(70)
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大橋康二	4. 巻 13
2. 論文標題 江戸前期、肥前磁器にみる大皿生産の盛衰	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 中近世陶磁器の考古学(雄山閣)	6. 最初と最後の頁 287-302
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 野上 健紀	4. 巻 79 (3)
2. 論文標題 長崎輸出の金襴手今萬里の生産と流通について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東洋史研究	6. 最初と最後の頁 1-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 荒川正明	4. 巻 38
2. 論文標題 ウィーン・ロースドルフ城所蔵の陶磁器 : 陶片の語る陶磁の東西交流	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 聚美	6. 最初と最後の頁 10-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 荒川正明	4. 巻 810
2. 論文標題 調査、修復から展覧会へ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 陶説	6. 最初と最後の頁 48-63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 櫻庭美咲	4. 巻 13
2. 論文標題 シーボルト著『NIPPON』図版に掲載された工芸品について	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 神田外語大学日本研究所紀要	6. 最初と最後の頁 135-156
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Koji OHASHI	4. 巻 Spring 2022
2. 論文標題 Special aspects of Japanese Ceramics in the Oliver Smith collection	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Arts of Asia	6. 最初と最後の頁 51-63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Koji OHASHI	4. 巻 -
2. 論文標題 Hizen Ceramics and its Export to Worldwide Markets	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 The Endless Epic of Japanese - Thai Ceramic Relationship in The World's Trade and Culture (Essays) (The Fine Arts Department, Bangkok, Thailand)	6. 最初と最後の頁 157-212
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 櫻庭美咲・大橋康二	4. 巻 -
2. 論文標題 アウグスト強王旧蔵日本磁器コレクション目録	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 アウグスト強王コレクション 18世紀前期輸出磁器と「日本宮」の日本表象研究 (基盤研究(B)課題番号JP19H01213 研究成果報告書)	6. 最初と最後の頁 8-110
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 櫻庭美咲	4. 巻 -
2. 論文標題 日本宮に陳列された日本磁器Japanisch Porcellain 1721年の所蔵品目録の研究ー	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 アウグスト強王コレクション 18世紀前期輸出磁器と「日本宮」の日本表象研究 (基盤研究(B)課題番号JP19H01213 研究成果報告書)	6. 最初と最後の頁 146-160
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大橋康二、櫻庭美咲	4. 巻 -
2. 論文標題 赤絵町出土品とアウグスト強王コレクションの比較研究	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 アウグスト強王コレクション 18世紀前期輸出磁器と「日本宮」の日本表象研究（基盤研究（B）課題番号JP19H01213 研究成果報告書）	6. 最初と最後の頁 161-174
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤原友子	4. 巻 -
2. 論文標題 ドレスデン国立美術館磁器コレクション館所蔵染付色絵漆装飾牡丹唐草文鳥籠形大瓶の購入記録	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 アウグスト強王コレクション 18世紀前期輸出磁器と「日本宮」の日本表象研究（基盤研究（B）課題番号JP19H01213 研究成果報告書）	6. 最初と最後の頁 175-178
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 島津美子、ドロネー・ジャン・ジャック、櫻庭美咲	4. 巻 -
2. 論文標題 漆塗り装飾染付磁器に見られる彩色装飾の材質分析と製作技法の考察	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 アウグスト強王コレクション 18世紀前期輸出磁器と「日本宮」の日本表象研究（基盤研究（B）課題番号JP19H01213 研究成果報告書）	6. 最初と最後の頁 179-189
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 櫻庭美咲	4. 巻 -
2. 論文標題 中国趣味からバロックへ 日本宮のIMARIにみる国際様式としての金襴手様式	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 アウグスト強王コレクション 18世紀前期輸出磁器と「日本宮」の日本表象研究（基盤研究（B）課題番号JP19H01213 研究成果報告書）	6. 最初と最後の頁 133-138
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 荒川正明	4. 巻 -
2. 論文標題 世紀末～18世紀初期「ポスト柿右衛門様式」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 アウグスト強王コレクション 18世紀前期輸出磁器と「日本宮」の日本表象研究（基盤研究（B）課題番号JP19H01213 研究成果報告書）	6. 最初と最後の頁 139-141
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大橋康二	4. 巻 -
2. 論文標題 有田窯の生産とアウグスト強王コレクション	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 アウグスト強王コレクション 18世紀前期輸出磁器と「日本宮」の日本表象研究（基盤研究（B）課題番号JP19H01213 研究成果報告書）	6. 最初と最後の頁 112-115
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤原友子	4. 巻 -
2. 論文標題 初期伊万里・初期色絵 初期輸出作品群	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 アウグスト強王コレクション 18世紀前期輸出磁器と「日本宮」の日本表象研究（基盤研究（B）課題番号JP19H01213 研究成果報告書）	6. 最初と最後の頁 116-119
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤原友子	4. 巻 -
2. 論文標題 有田（肥前）磁器の単色釉製品 白磁瑠璃釉鉄釉青磁	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 アウグスト強王コレクション 18世紀前期輸出磁器と「日本宮」の日本表象研究（基盤研究（B）課題番号JP19H01213 研究成果報告書）	6. 最初と最後の頁 120-123
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大橋康二	4. 巻 -
2. 論文標題 肥前・有田の柿右衛門様式	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 アウグスト強王コレクション 18世紀前期輸出磁器と「日本宮」の日本表象研究（基盤研究（B）課題番号JP19H01213 研究成果報告書）	6. 最初と最後の頁 124-127
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大橋康二	4. 巻 -
2. 論文標題 肥前の染付	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 アウグスト強王コレクション 18世紀前期輸出磁器と「日本宮」の日本表象研究（基盤研究（B）課題番号JP19H01213 研究成果報告書）	6. 最初と最後の頁 128-132
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西田宏子	4. 巻 -
2. 論文標題 京焼アウグスト強王コレクションに見る作品紹介	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 アウグスト強王コレクション 18世紀前期輸出磁器と「日本宮」の日本表象研究（基盤研究（B）課題番号JP19H01213 研究成果報告書）	6. 最初と最後の頁 142-144
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 櫻庭美咲	4. 巻 -
2. 論文標題 アウグスト強王コレクションの形成・陳列・保存の歴史	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 アウグスト強王コレクション 18世紀前期輸出磁器と「日本宮」の日本表象研究（基盤研究（B）課題番号JP19H01213 研究成果報告書）	6. 最初と最後の頁 5-6
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 櫻庭美咲	4. 巻 14号
2. 論文標題 フランス・プリングリー著『陶磁芸術』における肥前磁器研究と柿右衛門様式磁器の用語「乳白」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 神田外語大学日本研究所紀要	6. 最初と最後の頁 191-230
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 野上健紀	4. 巻 -
2. 論文標題 長崎から輸出された肥前陶磁	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 近世国家境界域「四つの口」における物資流通の比較考古学的研究	6. 最初と最後の頁 103-116
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Miki SAKURABA	4. 巻 247
2. 論文標題 Von Siebold's Nippon: Plates and Crafts	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Vormen uit Vuur	6. 最初と最後の頁 38-65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 野上健紀	4. 巻 9
2. 論文標題 スペインに渡った肥前磁器の流通ルートについて	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 多文化社会研究	6. 最初と最後の頁 103-116
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大橋康二	4. 巻 第8号
2. 論文標題 オリバー・スミスコレクションの日本陶磁器の特徴	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 佐賀県立九州陶磁文化館紀要	6. 最初と最後の頁 1-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 櫻庭美咲	4. 巻 -
2. 論文標題 柿右衛門様式の用語「乳白」の起源への考察	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 大橋康二先生喜寿記念論集 陶磁器と考古学 (雄山閣)	6. 最初と最後の頁 39-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤原友子	4. 巻 -
2. 論文標題 有田磁器製漆装飾付「烏籠瓶」について	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 大橋康二先生喜寿記念論集 陶磁器と考古学 (雄山閣)	6. 最初と最後の頁 119-128
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村上伸之	4. 巻 -
2. 論文標題 17世紀の有田における磁器の生産体制ー山本神右衛門重澄の窯業改革を中心としてー	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 大橋康二先生喜寿記念論集 陶磁器と考古学 (雄山閣)	6. 最初と最後の頁 151-160
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 野上健紀	4. 巻 -
2. 論文標題 近世窯業地における集落形成についてー有田内山と波佐見中尾山ー	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 大橋康二先生喜寿記念論集 陶磁器と考古学(雄山閣)	6. 最初と最後の頁 251-260
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 荒川正明	4. 巻 -
2. 論文標題 ウィーン・ロースドルフ城所蔵の陶磁器ー破片の語る陶磁の東西交流	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 大橋康二先生喜寿記念論集 陶磁器と考古学(雄山閣)	6. 最初と最後の頁 287-296
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計11件(うち招待講演 5件/うち国際学会 5件)

1. 発表者名 大橋康二, 扇浦正義
2. 発表標題 唐人屋敷跡出土の清朝陶磁中心の変遷
3. 学会等名 第9回近世陶磁研究会「江戸時代における年代の判る罷災資料 中国陶磁と肥前陶磁の共伴資料を中心に」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 野上建紀
2. 発表標題 陶磁器流通からみるグローバル化ー2016~2019年の調査からー
3. 学会等名 「陶磁器流通からみるグローバル化の世界史」研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 野上建紀
2. 発表標題 「出島」から伝わった肥前陶磁
3. 学会等名 長崎県考古学会大会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 櫻庭美咲
2. 発表標題 1721年：日本宮の所蔵品目録 資料編年に関わる記載の考察
3. 学会等名 基盤B科研「アウグスト強王コレクションにおける18世紀前期輸出磁器と「日本宮」の日本表象研究」主催 第4回研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 藤原友子
2. 発表標題 ルース・ソニヤ・シモニス氏の研究から知るアウグスト強王の東洋磁器購入について
3. 学会等名 基盤B科研「アウグスト強王コレクションにおける18世紀前期輸出磁器と「日本宮」の日本表象研究」主催 第4回研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 櫻庭美咲
2. 発表標題 Von Siebold 's Nippon: Plates and Crafts
3. 学会等名 Making Things: The Knowledge of Production and the Production of Knowledge, Colloge of Human Sciences, held by National Tsing-Hua University (台湾) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 野上建紀
2. 発表標題 中南米植民地期における陶磁器の流通
3. 学会等名 文化遺産国際コンソーシアム・中南米分科会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 大橋康二・櫻庭美咲
2. 発表標題 赤絵町出土品とアウグスト強王コレクションの比較研究の成果
3. 学会等名 近世陶磁研究会 第 11 回大会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 島津美子
2. 発表標題 蛍光X線と顕微鏡による分析
3. 学会等名 基盤B科研「アウグスト強王コレクションにおける18世紀前期輸出磁器と「日本宮」の日本表象研究」主催 第5回研究会（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 ドロネージャンジャック
2. 発表標題 EDXによる分析
3. 学会等名 基盤B科研「アウグスト強王コレクションにおける18世紀前期輸出磁器と「日本宮」の日本表象研究」主催 第5回研究会（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 櫻庭美咲
2. 発表標題 (コメント)伊万里焼の輸出 アジア向けを中心にー
3. 学会等名 東京大学史料編纂所共同利用研究拠点(海外史料領域)「本所所蔵在外日本關係史料の多角的利用のための翻訳研究」主催国際研究集会 (招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 野上 建紀	4. 発行年 2021年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 282
3. 書名 陶磁考古学入門 : やきもののグローバル・ヒストリー	

1. 著者名 櫻庭美咲編、著者：荒川正明・大橋康二・櫻庭・島津美子・ドロネージャンジャック・西田宏子・藤原友子	4. 発行年 2023年
2. 出版社 神田外語大学	5. 総ページ数 192
3. 書名 アウグスト強王コレクション 18世紀前期輸出磁器と「日本宮」の日本表象研究 (基盤研究(B)課題番号JP19H01213「アウグスト強王コレクションにおける18世紀前期輸出磁器と『日本宮』の日本表象研究」研究成果報告書)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	荒川 正明 (ARAKAWA Masaaki) (70392884)	学習院大学・文学部・教授 (32606)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	野上 建紀 (NOGAMI Takenori) (60722030)	長崎大学・多文化社会学部・教授 (17301)	
研究分担者	J・J Delaunay (Delaunay Jean-Jacques) (80376516)	東京大学・大学院工学系研究科(工学部)・准教授 (12601)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	大橋 康二 (OHASHI Koji)		
研究協力者	島津 美子 (SHIMAZU Yoshiko)		
研究協力者	西田 宏子 (NISHIDA Hi roko)		
研究協力者	藤原 友子 (FUJIWARA Tomoko)		
研究協力者	明珍 素也 (MYOCHIN Motoya)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	村上 伸之 (MURAKAMI Nobuyuki)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計3件

国際研究集会 基盤 B 科研 「アウグスト強王コレクションにおける18世紀前期輸出磁器と「日本宮」の日本表象研究」主催第2回研究会「磁器の漆塗り装飾」於ドレスデン国立美術館	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 基盤 B 科研 「アウグスト強王コレクションにおける18世紀前期輸出磁器と「日本宮」の日本表象研究」主催 第3回研究会「赤絵町の色絵生産」於有田町歴史民俗資料館	開催年 2020年～2020年
国際研究集会 基盤 B 科研「アウグスト強王コレクションにおける18世紀前期輸出磁器と「日本宮」の日本表象研究」主催 第5回研究会「漆塗り装飾の分析研究」オンライン学会	開催年 2022年～2022年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
ドイツ	ドレスデン国立美術館磁器コレクション館			
オランダ	フローニンゲン博物館	アムステルダム国立博物館	ライデン大学	
英国	ヴィクトリア&アルバート博物館			
米国	ピーボディー・エセックス博物館			
中国	故宮博物院（北京）			
その他の国・地域	台湾故宮博物院			